

# 霧ヶ峰基金会報

2008年8・9月号(通算25号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0061 長野県諏訪郡下諏訪町3236番地 Takafactoryさま2階

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



## 「もっと広く! もっと高く! 」

「草原の巨人」シシウド。

春の芽吹きから夏の間、驚くべきスピードで誰よりも広く葉を広げ、誰よりも高く背を伸ばし、その先端の花序には、セリ科特有の銀河系を模したような形の花序に白い花をつけます。

芽生えから何回かの冬を越え、エネルギーを蓄えた集大成として花を咲かせて種子をつける暮らしのシシウド。

あの繊細な花は、まるでてのひらから生まれ出るように、私達の前にあらわれます。

# 「モニタリング 1000 里地調査」一般サイト調査講習会参加報告

2008年7月19日(土)、20日(日)に神奈川県・横浜市「横浜自然観察の森」で開催された一般サイト講習会(主催:財団法人日本自然保護協会)に参加してまいりました。今回の講習会には関東地方で活動する団体・個人約50サイトの参加者が受講し、調査事務や調査手法を受講しました。

本調査は、正式には「重要生態系監視地域モニタリング推進事業」といい、環境省が主体となり(財)日本自然保護協会(以下NACS-J)に委託し行なわれます。全国に合計1000箇所程度の調査地を設け、100年間にわたりモニタリングを行なう事業です。(通称「モニ1000」)



とくに里地里山を対象とした調査は2008年7月現在、約200箇所の調査地が設定され、そのうち約180箇所で一般市民により調査が行なわれます。

ここで定義される「里地里山」とは、「人と自然との長い間の関わりによって作り出された変化に富む自然で集落やそれを取り巻く二次林、水田や畑、果樹園などの農地、ため池、草原など」とされます。

当法人が実施中の「八島ヶ原湿原外周、御射山～沢渡モニタリング調査」の調査区域は、この「草原」に区分され、今回調査地として登録されました。

参加項目は「植物相調査」と「水環境調査」、そして人間の関わりによる影響を記録する「人為的インパクト」の3項目とし、今回は「植物相調査」と「水環境調査」についてより正確なデータを取るための講習会が行なわれま

した。



また調査データについて、どのようなことがデータから読み取れるのか、100年の変化を追い続けることで、地域の環境保全や未来像の構築などに役立てられることなどの説明がありました。



当法人は調査を始めてまだ3ヶ月ですが、100年先の霧ヶ峰の姿を思い浮かべながら、現在収集しているデータが霧ヶ峰高原全体の保全に活用できるよう地道に調査活動を続けてまいりたいと思います。(降旗香代子)

## 八島ヶ原湿原外周、御射山～沢渡モニタリング調査報告「モニタリング 1000 里地調査」一般サイト参加調査



2008年5月より開始いたしました本モニタリング調査について、関係各所のご協力をいただき、7月までに3回の実施を行ないました。

第3回目は7月12日(土)・13日(日)両日にて実施し、植物相の調査コース全体で記録対象種(草本で、つぼみ・花・種子・胞子を調査当日確認できたもの)約60種類を記録しています。改めて霧ヶ峰の環境の多様性を実感しました。

7月は霧ヶ峰高原において観光客や登山客がもっとも訪れる季節であり、また調査コースも既存の登山道を利用しているため、早朝に実施し歩行者の利用の妨げにならないよう配慮いたしました。次回は8月下旬に調査を実施予定です。(降旗香代子)

# 車山湿原北側登山道のぬかるみ対策についての提案のその後について

「車山湿原のあの場所は、ぬかるんでいて歩けないの。皆さんが提案したぬかるみ対策で、何とかできないのかしら。」車山湿原の北側の登山道を確認に行った際、すれ違いでお会いした会員の方がこのようにお話をされました。

霧ヶ峰基金では、今年4月の会報にて霧ヶ峰高原内の一部の登山道が降水によって、ぬかるみや水溜りができているため、登山客が困られている状況を報告いたしました。また、木道が設置されるまでの間、暫定的にこのような箇所「すのこ状木道」を設置する提案をいたしました。

この提案は、この後、当法人の今年度の事業計画として採用、総会にて承認されました。

車山湿原のぬかるみのひどい箇所は、湿原の北側すでに諏訪市教委により木道が敷設された延長上(沢渡方面)になります。この提案については、霧ヶ峰高原を管理する長野県諏訪地方事務所環境課、そして天然記念物車山湿原を管理する諏訪市教育委員会生涯学習課にお伺いをして、担当者の方に直接、現状の説明と提案をさせていただきました。



また、当法人のスタッフも実際の状況を何回か現地において確認を行い、現状の写真撮影、ぬかるみの距離等の計測、そして一部の登山道利用者からは直接、御意見も頂きました。その結果として、地表面を流れてきた降水だけではなく、登山道脇より湧水があり、それが歩道内に流れ込んでいるため、ぬかるみや水溜りが形成されていることもわかりました。このことにより、「すのこ状木道」についても、ひとつの規格だけではなく、設置箇

所の地形や、ぬかるみの状況に応じて、規格や形状を変更させる必要があると考えております。

諏訪地方事務所環境課からは、諏訪市教委より提出されている車山湿原木道整備についての公園管理計画があるため、その計画に沿った中で、基金の提案する「すのこ状木道」を施工することが望ましい、とのお答えを頂戴したため、諏訪市教委への協議となりました。

諏訪市教委からは、この提案について歓迎を受けました。また、「今年度では難しいけれども、来年度以降の車山湿原の木道整備計画を策定する際には、諏訪市観光課、生活環境課との連絡調整を図り、当法人の提案を取り入れた公園管理計画を作成することが可能ではないかと考えられる。」との御意見を頂いております。

当法人としては、できるだけ早く登山客が快適に歩行できるようにするため、「すのこ状木道」を設置したかった所ではありますが、今までの様な経過があるため、今年度の設置見合わせることにしました。しかし、具体的な設置箇所、設置箇所の地形やぬかるみの状態に等に合わせた「すのこ状木道」の試作をし、施工と設置についての検討を実施して、今までの状況や情報をまとめた上で、諏訪市教委に改めて提案書の形で提出をいたします。

また、今回の様に、霧ヶ峰高原にある課題点を取り上げ、具体的な課題解決の方法や手段を提案し実行する。そして、提案の実施においても、課題箇所の現状の確認と記録の作成や情報・資料の収集、課題に関わる自治体や関係団体との連絡と調整、関連諸法規等の確認と認可や許可の申請、などの私共が行った一連の作業過程そのものが、ひとつの成果と考えております。今年度において「すのこ状木道」は目に見える形としての成果を作ることではできませんでしたが、今後、ほかの団体等について同様の問題や課題が発生した際には、これを解決する方法・ツールとして活用する先見事例として情報提供ができると考えます。

今後についてですが、提案書の提出後の協議や、新たに発生する解決していくべき問題点や課題等はございません。しかし、このような困難を乗り越えて、新しい公共の考え方の下、諏訪市教育委員会をはじめとする関係機関と協働して、登山道の整備が行えるよう準備を整えていく次第でございます。(藤田香・西村増夫)

# 霧ヶ峰の草でバイオエタノール！？

燃料が凄まじい勢いで高騰している昨今ではあります。霧ヶ峰基金では、事業方針の長期目標「霧ヶ峰の自然保全が可能かつ現代にあった利用方法の再構築」、中期目標 - 「霧ヶ峰のもつ資源価値の再発見」に基づき、7月9日～11日に横浜で開催された『Bio Fuels World 2008 第2回バイオ燃料製造装置&材料展』の視察を行い、関係者から現在のバイオエタノールの動向を視察してきました。

## 現在の動向

サトウキビ、トウモロコシに含まれる糖を材料に製造されるのが、「バイオエタノール」であり、菜種、パーム（アブラヤシの果実から取れる油）を材料にして製造されるのが、「バイオディーゼル燃料」です。昨今、バイオエタノールの生産が加速しているため、穀物が高騰しているのはみなさん御存じのとおりです。

国内では、比較的小規模の商用プラントや実証プラントが、北海道（トウモロコシ、テンサイ、規格外小麦）、新潟（コメ）、沖縄（サトウキビの糖蜜）など各地ですすめられています。主に糖を材料にエタノールを生産するプラントです。

せてエタノールをつくります。そのため、材料によりタイプの異なるプラントが必要になります。



バイオエタノール



しかし現在は、食糧と競合のないセルロース資源によるバイオエタノール開発が求められており、展示ブースでも、稲わら、木材を材料したプラントの展示がありました。

「稲わらの場合、木と異なり二酸化ケイ素が多く含まれるため、二酸化ケイ素によるプラント資材の摩耗をどう抑えるかが課題である。もし草原の草を材料した場合も同じではないか。」と続けて説明して下さいました。この点は経済性にも影響することであり、プラント建設費、設備コスト、人件費、さらにバイオエタノール自身の価格に影響してきます。

「エタノール材料は、混ざりものはないもの（草と木が混成しない。もちろんごみはだめ）であり、また、安定した量が供給できることが条件である。それがコストを抑え、安定的にバイオエタノールを供給するために必要なこと」と材料について付け加えていました。

## 燃料用エタノールの材料の特徴

「糖を主材料とする農産物でエタノールを製造する場合と、木質系バイオマス（建築廃材、間伐材、剪定木、稲わら）で製造する場合は、製造技術が異なる」とプラントメーカーの担当者から説明がありました。

でんぷんの場合、ある種の酵母で発酵させエタノールを製造しますが、木質系バイオマスでは、材料を硫酸で前処理をしたあと、遺伝子組み換え大腸菌でヘミセルロースを発酵、そしてある種の酵母でセルロースを発酵さ



## 今回の視察を終え

現段階ではエタノール製造は試験段階の技術です。しかし強い必要性に迫られ進められている研究開発ですので、日進月歩で研究は進んでいくと思います。この点はプラント担当者の意見を聞いていて強く感じました。

一方、冷静振り返ると草原の利用をバイオエタノールの限定することは時期が早いような気がします。資材供給地として草原を想定した場合、安定供給のため、草刈り、火入れを催行し、より一層、草原のコンディションを一定に整える必要があり、これには時間を要します。

しかし、科学技術の進歩に備え、先人たちより引き継がれた草原の良好な条件で未来に引き継いでいくことは、将来の諏訪地方あるいは日本に大きく貢献することが約束されているような気がします。そのためには霧ヶ峰おける火入れ、雑木処理、刈り取り等の草原管理、そして観光旅行者に霧ヶ峰からのメッセージを伝えるエコツーリズムの普及が必要だと考えます。



最後に素人の質問に対し丁寧に答えてくださった、月島機械株式会社 砂糖バイオ技術部 田中主事、サッポロエンジニアリング株式会社 プラントエンジニアリング部 遠藤副部長に厚く御礼申し上げます。

(小原宏文)

## 活動記録(2008年6月1日～6月30日)

6月	1日	・情報収集
	5日	・オリジナルポストカード、販売開始
	14日	・理事会開催 ・2008年度通常総会、開催
	15日	・モニタリング調査、第二回実施 ・情報収集(霧ヶ峰高原)
	17日	・茅野エコツーリズム協議会設立総会、出席 ・諏訪アライアンスプロジェクトさいか、打ち合わせ会
	19日	・下諏訪商工会議所「緩やかな連携会議」
	21日	・情報収集(霧ヶ峰高原)
	22日	・受託ツアー催行
	28日	・会報2008年7月号発行
	29日	・情報収集(霧ヶ峰高原)

(2008年6月末日現在) 個人特別会49名 個人一般会員70名 法人会員4団体 正会員10名

いつもご支援ありがとうございます。

寄付金(2008年6月1日～6月30日)を102,000円いただきました。

寄付金は、活動を通じて霧ヶ峰の環境保全とエコツーリズムの推進に活用されます。誠にありがとうございます。

【ご寄付くださった方々】 霧ヶ峰保存カレンダーカンパの会のみなさま、ほか個人

**霧ヶ峰基金は活動の趣旨にご賛同してくださる方の寄付金を、随時受け付けております。**

金額は1円以上から、下記の郵便口座までお願いいたします。

全国の郵便局からいつでもお手続きいただけます。(手数料はご負担ねがいます。)

・口座番号 00520-7-44684

・加入者名 特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

ご寄付をいただいたかたのお名前の取り扱いについて

2008年4月より寄付金をいただいたかたにつきまして、金額に関わらず、ご本人様が希望されない場合を除き、会報上にてお名前をご紹介します。あらかじめご了承ください。(お名前のご紹介を希望されない方は、その旨をお知らせください)

NPO 法人霧ヶ峰基金の活動を支援してくださる法人会員のみなさまです。



株式会社エルシーブイさま



信州総合開発観光株式会社さま



株式会社永田製作所さま



株式会社クリンビーさま

NPO 法人霧ヶ峰基金は活動を支援してくださる企業・団体さまのご入会を随時受け付けております。お問い合わせはNPO 法人霧ヶ峰基金事務局 (e-mail kirigamine.kikin@gmail.com.) にて承ります。

## 第2回 & 3回定例会 (仮称) のお知らせ

今回は「水環境調査に挑戦しよう!」と「初秋の気配漂う霧ヶ峰をゆるゆる歩こう!」という企画です。

お友達やご家族、入会ご希望の方も歓迎です。

ぜひ、ふるってご参加ください。

**日時** 2008年8月31日(日)(小雨決行、荒天中止)  
水環境調査 八島ヶ原湿原周囲を中心に、6箇所の水を調べます。

2008年9月 日

散策会 歩くコースは当日の参加者と決定します。

**集合** 午前8:00 霧ヶ峰自然保護センター駐車場

午前9:00 霧ヶ峰自然保護センター駐車場

**持ち物** 歩きやすい靴、帽子、雨具、お昼ご飯、飲み物など  
(紫外線対策をお忘れなく!)

**参加費** 無料(傷害保険加入済み)

**お申し込み** 不要(当日、定刻に集合場所にお集まりください)



## オリジナルグッズ、新作が仲間入りしました。



大変長らくお待ちいたしました。オリジナル手ぬぐいに「コウリンカ」が仲間入りいたしました。

日本各地の草原で姿を消しつつあるコウリンカは環境省レッドデータブックのⅡにランクし、霧ヶ峰でも草原環境の変化と共にすこしずつ減っているとされるキク科の植物です。ユニークな花の形とあざやかなオレンジ色が特徴のコウリンカ。

草原の保全を願って、有名手ぬぐい専門店「かまわぬ」で制作いたしました。職人が一枚ずつ手で染めた逸品でもあります。どうぞおそばにおいてご愛用ください。

1枚1,200円です。法人会員、特別会員の方(白い会員証をお持ちの方)は1割引でお求めいただけます。会員割引をご利用の方は事務局にお問い合わせください。

## オリジナルポストカード『flowers 霧ヶ峰』も好評発売中

夏のごあいさつ、お友達のおたより、ちょっとしたプレゼントにぜひご利用ください。そして、季節を彩る花たちに会いにぜひ霧ヶ峰へお越しください。各種1枚、計5枚入りで1セット450円です。

会員割引をご利用の方は事務局にお問い合わせください。



**編集後記** 梅雨が明けたとたん、キンキンの太陽照りつける草原には、ニッコウキスゲがゆれています。霧ヶ峰の代表的景観ともいえる、草原一面のニッコウキスゲ。「霧ヶ峰のいいところはキスゲだけじゃないのよ」といいつつ、この景色に疲れも吹っ飛ばすほどの、爽快感を覚えるのでした。(か)